

Ⅲ 才5回 カツオ・マグロ漁業に関する研究座談会

主催 水産海洋研究会

日時 昭和41年4月26日 午後1時～5時30分。

場所 焼津漁業協同組合小会議室

コンピナー

岩下光男 (東海大学海洋学部)

話題および話題提供者

情報提供

昭和41年度紀南海区夏ビンナガの漁況

岩崎行伸 (東海大学海洋学部)

北西部太平洋の夏ビンナガの開発

井上元男 (東海大学海洋学部)

魚探調査によるマグロの生態

西村実 (水産庁漁船研究室)

漁船の省力化研究の現況

横山信立 (水産庁漁船研究室)

カツオ・マグロ世界漁場開発と防災

宇田道隆 (東京水産大学)

魚探新製品の紹介

(各メーカー)

質疑応答

1 昭和41年紀南海区夏ビンナガの漁況について

岩崎行伸 (東海大学海洋学部)

1) 海況概要

気象庁海況旬報4月上旬の表面等温線図および清水港漁船の漁況報告より得た紀南海域の海況・漁況の概要は次の如くである。本邦近海を流れる黒潮流路の中軸線は佐多岬から室戸岬に至る間、比較的例年通り接岸し流れている。潮岬沖合からは遠州灘の南東に形成されている表面水温 15.5°C を中心とする冷水塊を大きく南に迂回しながら青ヶ島、スミス島間を通り抜け、その後、八丈島附近に達している。さらに、流路は野島崎沖合の 35°N 線より東方に流去している。この流路の中軸線の海洋型は、この時期において比較すると、昭和38年の型に類似している。しかしながら、伊豆列島線を北上する流路は38年度に比べて60哩ほど西偏しており、しかも、表面水温は 2°C 以上高目である。一般的に黒潮流路の表面水温は例年より 1°C 前後高目、昨年同期に比較して $3\sim 4^{\circ}\text{C}$ 、また、流路以南 30°N 間は $1\sim 4^{\circ}\text{C}$ 高目である。とくに、3月中旬に入り、南方からの暖流分派は $139\sim 141^{\circ}\text{E}$ 間を顕著に北上している(才1図参照)。

本年1月以降表面水温の月別、旬別変化は才2図に示される。すなわち、各海域における旬平均表面水温の昇降はいずれの海域とも昨年より一般的に高目を呈し、とくに2、3月に $1\sim 3^{\circ}\text{C}$ 高目を示している。また、この時期、 28°N 線における 20°C 以上のビンナガ適水温帯は西ノ島海域($140\sim 141^{\circ}\text{E}$, $27\sim 28^{\circ}\text{N}$)の暖流分派の突出部